令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【新和小・中・中等教育学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 言語に関する事項や計算など基礎・基本の定着が不十分である。 <指導上の課題> ICTやテスト等の学習履歴を効果的に活用した個別支援や指導法等の設定が不十分である。	⇒	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を授業や朝の時間に積極的に活用し、計算等、基礎・基本となる事項について、反復・習熟を行う。【全単元での実施】 また、学習履歴を確認し、個別支援の手立てを講じる。【全単元での実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 目的や場面に応じて、自らの知識・技能を発揮したり、必要な資料を活用したりしながら、自己の考えをもつことが難しい。 <指導上の課題> 児童が主体となる授業展開や協働的な学習活動を設定する場面が少ない。	⇒	授業の中にICTを活用して児童の考えを共有したり、共同編集をしたりする活動を位置づけ、協働的な学びによって自己の考えを表現することができるようにする。【さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか」の質問項目において、肯定的な回答80%以上】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語では、文の中における主語と述語の関係を捉える問題において、課題が見られた。4と回答しているものが多く、主語の意味の理解が不十分であると考えられる。算数では、数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる問題で正答率が低かったことから、問題場面を理解し、立式することに課題が見られる。今後、協働的な学習を通して立式の妥当性を検討する学習活動を設定したり、ICTを活用し、文章から立式をする問題等に反復して取り組み、習熟を図っていく。
思考・判断・表現	国語の「C読むこと」に関する内容に課題が見られた。特に物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題の無回答率が多いことから、読むことにおける自分の考えをもち、表現する力が不十分であると考えられる。本を読んだ際に、友達の考えを共有することを通して自分の感想をもつことから、相手や目的に合わせて伝え合う言語活動や、条件に合わせて文章を書く言語活動を重視したい。また、算数においても計算の仕方の求め方について、式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られたことから、既習事項を活用して思考することが不十分であると考えられる。ICTを活用しながら、既習事項を振り返ったり、繰り返し定着を図ったりする学習活動を重視したい。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	朝学習の時間や単元の途中・終わり等、「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組みことができた。 学習履歴においては単元の振り返りを行い、達成状況を把握し、個別支援に生かすことができた。発達段階に応じて、ICT活用による学習履歴に残す活動がまだ不十分である。	変更点なし
思考・判断・表現	B	授業の中で児童の考えを共有する場面の設定することができ、協働的な学びの場面を意識した授業展開を行うことができている。ICTの活用について、効果的な授業展開を工夫していく必要がある。	変更点なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の文の中の主語と述語の関係を捉える問題において課題が見られた。主述の関係を正確に理解することは「読むこと」・「書くこと」にも影響していると考えられる。 算数では数と計算において小数の減法の計算に課題が見られた。各学年において学習する内容であることから、ドリルでの反復練習だけでなく、小数をもとにして考える等、計算の意味について理解を深める必要があると考えられる。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」の領域において平均正答率が低く、課題が見られた。物語文の理解において、主述の関係を正確にとらえたり、文章の描写や叙述を基に登場人物の心情や行動について考えたりする学習活動が必要であると考えられる。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	ドリルパークやスタディサプリを活用し、学習履歴を確認しながら個に応じた進度で学習の反復や習熟を行うことができた。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査の国語「言葉の使い方や使い方に関する事項」や算数「数と計算」の項目において、同集団比較でR5年度の結果を上回った学年・項目が多かった。
思考・判断・表現	B	さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか」の質問項目において、平均して肯定的な回答91.6%となっており、成果が表れている。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。引き続きICTを活用しながら各教科・単元で計画的に位置付けていく。全学年で課題が見られた「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組について、主述を意識して読んだり書いたりする活動場面を設定することを全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	教科横断的な視点として、相手や目的に応じて資料（文章・図・グラフ等）を読みながら自分の考えをもったり、表現したりすることに課題が見られたため、「資料を適切に読むこと」から「自分の考えを書く」や「効果的に書くこと」を意図的に各教科の学習過程に位置付けていく。また、児童が学習活動を自己評価し、学習の関連を図りながら次の学習につなげて考えることができるようにするため、ICTを活用した振り返り活動を重視していきたい。